

Por um futuro melhor



どの子の未来も明るくなりますように！

フラジル通信 No.10

2018.10.27

学校教育課 鳥山徳子

フラジルの子どもたちは、みんな Muito Bonito!!(かわいい！)

③ 10月17日(水) ELZA GRASSIOTTO CASELLI 学校訪問(全日制) ⇄ 汐田小学校



インテグラル(全日制)はとてもよいです。子どもが学習する時間が増えるので、力がつきます。予算さえあれば、すべての学校が全日制になって、先生が午後からも指導できるようになるとよいと思います。



イザキエル校長(不在)
・児童数 330人
(特別支援12人)
・教員数 28人
・学級数 14学級
・IDEB 7.2

★オリエンタドール(写真)によると、校長先生が大切にしていることは、「みんなで考えて、アイデアを出し合い、予算の使い道も含めてすべてのことを決めていくこと」だと言っていました。

全教室の廊下側の壁面に歓迎の言葉が工夫して掲示されていました。

★マリンガ市では、特別支援学級の子は普通学級と一緒に学ぶようになったと聞きましたが、パラナヴァイ市では学校によって状況が違ってきます。この学校には、特別支援学級があり、在籍は12人ですが、障害の種別は明確になっていませんでした。ほかの子どもたちは全日制なので1日いますが、この学級の子どもたちは午前中のみ学習し、午後は下校するそうです。



チェスの授業は大好きです。日本ではチェスをやらないんですか?びっくり!!

④ 10月17日(水) ILDA CAMPANO SANTIN 学校訪問(全日制) ⇄ 栄小学校



「家庭が学校と一緒に歩いていったら、もっと子どもはよくなる」と保護者にいつも伝えています。だんだんよくなってきていますが、まだ会議への出席率は50~60%程度です。

★全日制ですが、午後には先生は配置されていません。
★栄小学校のプールの写真を見て、先生方がとても羨ましがっていました。各学校に1つプールがあることを伝えると、とても驚いていました。

★とにかく教室が暗かったです。子どもたちは慣れているかもしれませんが、おそらく学習に十分な照度に達していないので、蛍光灯に変えてもらえないかと思いました。

マルシア校長
(2年目:写真右)
・児童数 228人
(特別支援 9人)
・教員数 13人
・IDEB 6.7

日本の旗を作って出迎えてくれた3年生の子どもたち。ありがとう!

日本ではケンパ? 子どもの頃、よくやりました。



ちょこっと情報 [SUPERVISORとORIENTDORって何?]

各学校には、校長先生によって指名された「SUPERVISOR」と「ORIENTDOR」がいます。直訳すると、それぞれ「監督者」と「顧問」になりますが、学校訪問を重ねていくうちに、「SUPERVISOR」は、先生や子どもたちの学習指導にかかわる教務主任のようなもの、「ORIENTDOR」は、いじめや生活指導などにかかわる校務主任のようなものということがわかってきました。この3人のチームワークとフットワークの軽さで学校の良し悪しが大きく変わります。

Por um futuro melhor



どの子の未来も明るくなりますように！

ブラジル通信 No.11 2018.10.27 学校教育課 鳥山徳子

あやまるときは、Desculpe または Desculpa (ごめんなさい)

⑤ 10月18日(木) EDITH EBINER ECKERT 学校訪問(全日制) ⇄ 鷹丘小学校



ジャーネ校長(4年目)
・児童数 180人
(特別支援 11人)
・教員数 20人
・学級数 7学級
・IDEB 6.6

ここに赴任した際に、算数の力があまりにも低く驚いたので、特別支援担当の経験を生かして、先生方に「もっとゲーム的な学習を取り入れながら楽しくやりましょう」と言ってきました。その結果子どもが算数好きになりました。また、授業中に文字がきちんと書けていない子を大学生が取り出し、教えることで、ずいぶん上手に書けるようになりました。

グループを作って、「ゴミを拾いましょう」「給食を残さず食べましょう」と子どもたち同士で呼びかけています。日本のビデオを見て取り入れることにしました。給食後、子どもたちが自主的に掃除をするようになりましたが、親の中には、「うちの子どもはやりません」と言って、反対する親もいます。今の教育を変えるには、親の協力と理解が不可欠です。

★午後も教員を配置しています。午前中は、国語6算数6体育2美術1宗教1(他の学校より時間数が多い)。午後は、理科2・地理2・歴史2など。

★体育館がなく、入り口付近の広場で体育を行っていました。

校長先生 「ここ10年くらい、親が子どもにとっても甘く、困っている。親は子どもの言う通り。スマホやPCを与えて、ほったらかしの状態。政府が学校にかかわるものをすべて無償にしたのが原因で、親は何でも学校任せになってしまった。学校が何でもやってくれると思っている。親が悪ければ子どもも悪い。」

鳥山 「私は、そういう親には、悪いことをしたときは伝えず、しばらく見守るようにし、反対にその子がよいことをしたときに伝えるようにしています。そうすると親が学校を信頼するようになり、子どもも先生の言うことを聞くようになると思います。」

校長先生 「その通りですね。今年は、先生方に連絡帳にほめることも書くように伝えていきます。」



⑥ 10月18日(木) JOSE VAZ DE CARVALHO 学校訪問(二部制) ⇄ 下地小学校



シィールレイ校長
(2年目)
・児童数 337人
(特別支援4人)
・教員数 19人
・学級数 13学級
・IDEB 6.6

この地域は、貧しい家庭の子もいれば、ふつうの家庭の子もいる。「みんな同じように平等に扱いましょう。家庭で習ったことを大切にしましょう。習っていないことは学校で教えてあげましょう。」と先生方には伝えている。教育を受けていない親も多く、家庭で教えていないことも多いから、家庭で教えていないことは学校で教えてあげることが大切。それが平等。

この学校の親はみんな協力的です。なぜかという、ここに通う子どもたちの親はみんな親戚や友達で、先生も近くに住んでいるから、みんな仲が良い。どの親も学校が呼べば来てくれますよ。とてもやりやすい地域です。

★突然の大雨と暴風で、急遽夕食を食堂ではなく、1つの教室に順番に来て食べることになりました。私も手伝うことにし、サラダを配りましたが、半分以上の子がサラダは食べませんでした。入れようとすると、「Não」と断られてしまいます。フェジョン・ご飯・お肉・野菜の4種類の中で、子どもたちは欲しいものだけもらっていました。栄養のバランスなどは考えられているのか心配になりました。機会があれば聞いてみたいです。

★今までの学校の子は、焼きそば、刺身、寿司と言えば、みんな反応がありましたが、この学校の子たちは、日本の食べ物を一つも知りませんでした。私がどうやってブラジルまで来たのかを、校長先生が子どもたちに尋ねましたが、最初に出てきたのは馬やオートバイ、続

いてバス、車、電車で、飛行機は最後まで出てきませんでした。貧困と教育について、そして平等に教育を行うことの難しさについて考えさせられた学校訪問でした。



歓迎の歌を歌ってくれました。透き通るような歌声でした。